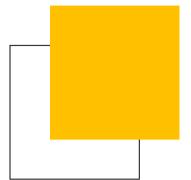
かさねの色目の花あそび No.21

【色目】残菊くのこりきく 表:黄 裏:白>



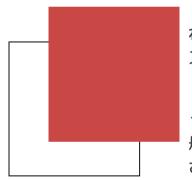
冬も近い頃の、咲き残った黄菊と白菊の色のようだ。9月9日の重陽の節句の「菊花の宴」の後、10月上旬に「残菊の宴」も催されていたらしい。共に旧暦なので、後者は新暦の11月上旬か。確かに、咲き残った感じだったのだろう。それはそれで興あり、と平安の風流人。



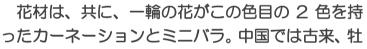
花材は、淡い黄色のカーネーションと、ほぼ咲ききったオーニソガ ラム(この花はほんとゆっくりと時間をかけて下から上まで咲ききる)。

かさねの色目の花あそび No.22

【色目】牡丹 〈表:淡蘇芳 裏:白〉



牡丹の花色には紫・紅・白・淡紅などがあり、いわゆる「牡丹色」は「紫紅色」。この色目をミックスするとそんな色? いや、もっと薄い紫紅色かも。





丹は花の王「富貴花」とされ、わが国でももてはやされた。作品はさ さやかすぎるありふれたものになったが、あしからず。

かさねの色目の花あそび No.23

【色目】葉桜 〈表:萌黄 裏:二藍〉



二藍とは、藍の上に紅花を染め重ねた明るく渋い 青紫色のこと(紅藍と藍の二色の藍で染めたもの)。 若年ほど紅を強めに、壮年ほど藍を強くしたとか。 葉桜というからには、花が散った後に萌え出ずる若 葉との組み合わせなので、もっと紅が強めでも良さ そうにとも思うが、『源氏物語』に、光源氏が息子



の夕霧に対し「紅みの強い二藍では軽く見られる」と嗜める場面がある。 なるほど、紅を抑え、派手にならないよう格調高く、か。

花材はアスパラガスとスターチスに、ゼラニウムも花器口にクシュと入れて緑色をヘルプ。